企業行動研究部会議事録（No.320回）

日　時：2023年5月8日（月）18:00～20:00

場　所：リモート会議

出席者：阿部奈美、永井郁敏、峰内謙一、勝田和行、菱山隆二、北川則道、平塚　直
比賀江克之、河口洋徳、佐久間健、野崎篤彦、齊藤　剛、木村　徹、向井恒泰
出口純輔、岡田佳男、川村正彦、堀場政行、櫻井功男（17名）

1. 事務局連絡（河口部会長）

1）第187回理事会報告（会員数）
- 会員数は10名の新入会員と、4名の退会者があり、現在522名が在籍

2）第31回研究発表大会
- プログラムおよび発表者が決定され、詳細は別途後送

3）第31回2023年度総会議案の説明

4）理事会報告事項
1. 30周年記念シンポジウム報告
2. 2023年度研究法ワークショップが開催予定
3. 学会賞（選考状況の説明）
4. サステナビリティ経営研究に関する報告
5. 国際交流事業の件（日タイ経営倫理・CSR国際カンファレンス）
6. 広報委員会報告
7. その他
   a. 委員会の構成について
      a) 活動の活性化
      b) 委員は会員の中から選任でるようにした
   b. 理事会研究交流例会等の開催日程再確認
      a) 理事会スケジュールと新年度役員について

2. 今後の研究報告予定

※下期以降の積極的研究発表をお待ちします。

06月→斉藤部員（PWCのCEOサーベイから）
07月→勝田部員（リーダーとしての世阿弥）
08月→古山部員（倫理教育の時期）
10月→岡田部員（予定）

3. 研究テーマ発表

本日のテーマ：「生成型AI革命ガイド」

～Generative AIとは何か？どう凄くて、何が問題なのか？～

永井部員の解説により、話題のChatGPTに代表される生成型AIの解説が行われ、随時質問と意見交換がお行われた。スマートフォン以来のビッグトレンドと評される「Generative AI（生成型AI）」を取り上げ、各種調査資料とOpenAIからの広報文、更に実際のChatGPTによるアウトプットの実演を交えての解説が行われた。

生成AIとはどの様なものなのか、どの様な経過をたどり現在に至っているのかを、まずは、2018年のGPT１（”Generative Pre-trained Transformer” 事前学習トランスフォーマー）から、現在のGPT4に至る概略の説明が行われた。特に従来テキスト（自然言語）のみであったAIとの入出力が、画像や動画、音声や数式など、さまざまな形態の入出力ができる様に変化しているところが最近の特徴であることが示された。

その後、現在どのようなことが起きているかを、具体的事例からの紹介が行われ、今後の可能性とAIがもたらすであろうリスクについて、最新のトレンドと技術的観点による情報の共有から行われた。更に、経営者に求められる生成AIへの視点を考察した。

そして、社会的なパラダイムシフトを引き起こす可能性を、AIの技術的な転換点（技術的な相乗効果がもたらした技術）の視点による解説が行われた。

最後に、現象学的視点がChatGPTに取り入れ始めていることから、現象学がもたらす今後のAIの可能性を、ご自身の視点から展開され、AIに共感覚（共感性）を持たせることがより人間的な回答（生成物）に繋がるとして締め括った。

意見交換（抜粋）

- AIはマシンであり人間とは異なる。この前提は揺るがないのではないか？
- 文章だけであれば、言語プロセッサーの域を出ないのでは？
- 現象学的視点が導入されたとしても、AIが閃きや気づきといった人間だけにある思考作用を実現できるのか？
- これからの社会はどうなるのか？
- ChatGPTに何を質問したら良いか聞くとどうなるのか？
- 量子コンピュータとAI開発がもたらす未来についての考察
- 軍事的目的を踏まえた、交際協調が求められるAIへの規制やガイドラインのあり方
- 同様に早すぎるAI開発スピードと遅い国際基準設定の検討の問題
- 結局最後に判断の基準として求められるのは「倫理観」ではないか..

等々の質問や意見交換が行われた

以上